

農業って楽しくないけど、夢があるんだ

のどかな田園都市を支える 新規就農家のホンネの話



出口湧己さん 3年目
Vita(服部町)

※記事内のAは、市内で頑張っている新規就農者の放談。参加者の声をまとめたものです。

人があったかいから 守山で就農しました

Q：本市は新規就農者が他の市町村より多いといわれます。どうして守山で就農することにしたのでしょうか。

A：新規就農者には、生まれも育ちも守山という人もいれば、他所から守山に来て農業を始めた人もいますが、「市の担当者が

親身に就農の相談にのってくれた」「農地見学に行った時に出会った人が優しくかった」など、人の温かさに着かれて守山での就農を決めました。

「地域や他の農家に溶け込めないかも」「相談できる人がいないかも」などは、新規就農を目指すときの大きな不安と課題になります。

借りられる農地を見つけるのも苦労しますが、守山では市の職員が他の農家さんを紹介してくれます。その農家さんも、自

農家になるなら 覚悟をしろ

Q：農家は大変だというイメージがあります。農業の仕事に就いてみてどうでしたか。

A：自然が相手の仕事なので苦労はあっても「ゆつたりした世界」だと思っていました。

実際の仕事は常に時間に追われています。天候など人ではとうてい勝てない苦労もあります。ペテランになれば対処できることもあるでしょうが、経験も技術もないので悪戦苦闘しています。農業と一口にいっても、露地やハウスで野菜を育てる作業はたくさんある仕事の一部に過ぎません。栽培計画を立てて土づくり、種まきや苗の定植、温度管理、害虫や病気への対策、収穫、洗浄、梱包、出荷、めまぐるしいほどの作業があります。野菜は自然の恵みで鮮度が大切ですから、収穫や作業に適した時間帯も決まっていたりして本当に大変です。



大久保雄介さん 2年目
湖風農園(今浜町)

持ちで覚悟がないなら、就農しても続きません。

苦労もあるけど ワクワクして楽しい

Q：大変でも農業を選んだ。その魅力はどんなところですか。

A：農家はいわば自営業の社長。苦労しながら丹精を込めて育てた野菜も、売り先がなくては成り立ちません。新規就農の私たちは、経験も足りないけれど、自分でも売り先を開拓していくしかないですね。

農業は人との関わりが少ないのかな、と思っていましたがとんでもない。人と人の交流を大切にすることで「市場に不足している野菜」や「仕入れ先を探



今井啓文さん 5年目
ラトナファーム(今浜町・中野)

しているお店などの有益な情報や紹介につながります。

農業だけではなく、お金の管理もパートナーの管理も営業も、全部自分でやらないといけません。とても忙しいですが毎日ワクワクしています。

「袋数百円の野菜を作っているとお金を稼ぐ、儲けることの大変さも実感しますが、同時にそんな農家の現状を変えたいという気概もあります。」

確かに苦労も多いですが、結局「好きだから」「楽しいから」が続いています。

私たちの夢は フライストレス

Q：大きな覚悟と夢をもって



川井玲央さん 4年目
よつてニファーム(今浜町・笠原町など)

農地の一部でいつもの土壌に手を加えて育ててみるなど、それぞれ、よりよい作物を育てる工夫や研究をしています。割高に感じることもあるかもしれませんが、それは手間を惜しまない苦労や人手、材料などの値段。フライストレスの夢や情熱に少しでも価値を感じてもらえたらうれしいです。

市民の皆さんに直接販売する機会として、4月からJR守山駅西口のライズヴィル都賀山前で開催される「つがやまマルシェ」に出店します。農家が愛情込めて育てた野菜を持ち寄り、作物を育てた農家の顔を見て、野菜の種類や味、匂い見分け方など、いろいろな話をしながらマルシェを楽しんでほしい。私たちだけではなく、他の農家さんも参加予定です。お楽しみに。

農家はみんなチャレンジャーやで

のどかな田園都市を支えるベテラン農家のホンネの話

めまぐるしい農家の環境
自分なりの挑戦で生き残る

苦勞と魅力は紙一重
先輩からのアドバイス

後継者として就農したので、頼れる農業大先輩の親がいて、受け継いだ農地もある。何も無い状態から農家になった新規就農者より恵まれていた面はあると思います。

私たちは親の背中を見て、時には手伝いをして、農家になる下ごしらえができていました。苦勞も厳しさもある程度知っていて、覚悟してから就農しています。

農家として長い経験を積んできた親は頼れる存在でもありませんが、農業技術も消費者の傾向も、農家を取り巻く環境は時代とともにめまぐるしく変わってきているので、親と同じことだけをやっていただけでは生き残れない。でも、何かを変えようとしたら、新しい挑戦をしたりすると衝突してしまうことがしばしばあります。

新規就農者も農業学校に行くなど準備をしてくれていると思いますが、農業の知識があっても経験はありません。農家が一人前になるには時間がかかります。トレーニングハウスや研修などで農業の現実と苦勞を知った上で、覚悟を持って農業に飛び込んできた新規就農者なら、先輩農家としてできるだけ力になりたいと思っています。

その中で、少しづつ「やりたいこと」を見つけ、自分なりの農業経営を成功させようと努力している中で、チャレンジャーという点では同じです。

農業で成功する秘けつなどありませんが、アドバイスをするなら「米でも野菜でも果物でも、手を抜けば抜いた分だけ、手を掛ければ掛けた分だけ、品質や収穫量という形で作り手に返ってくる」といっています。



井入農園
井入 吉信さん 9年目



株式会社 山田農園
山田 貴幸さん 29年目



株式会社 Liv.N
西 直幸さん 30年目

それは農家の苦勞であり、最大の魅力でもあります。

「育てる」と「売る」の努力
品質向上もブランド化も

農家の苦勞は、新規もベテランもあまり変わらないです。自然が相手なので、一度だつて同じ生育環境にはなることは無い。何年農家をやっても、毎年1年生と同じです。経験は多いかもしれないけれど、それは失敗を重ねてきた結果でもあります。

農業施設を建てたり、維持したりするのは費用がかかります。肥料などの原料も高騰している中での農業経営は大変です。

競争の少ない作物を探したり、新しい品種の栽培に挑戦したり。丹精込めて育てた農作物の販路も昔からの方法だけではダメで、通販対応やブランド化で消費者のニーズに合わせたり。いろいろなところで新しいチャレンジをしています。

最近話題になってきた「もりやまびわ」パール野菜のブランドینگも、産官学で力を合わせたチャレンジの一つです。

町の農業をどうしたいか
農作物の出口にも応援を

宅地化や都市計画で市内の農地は減少していますが、それ以上に高齢化や後継者不足で農業人口が減っています。このままでは「のどかな田園都市」はもうなくなってしまふのか。未来を思うと、長年やっている農家にも漠然とした不安があります。

守山(行政)は、まちの農業をどうしていきたいと思っているのだらう。農業担当の職員が頑張ってくれていることは承知していますし、農家と農地のマッチングや新規就農者を補助金で支援することは大切です。

しかし、収入の安定は新規もベテランもなく、すべての農家が望んでいることです。野菜をはじめ農作物には旬があります。丹精込めた作物を適正価格で売るための力も貸してほしい。

生産者同士の情報交換や交流、地場産物のPR、生産者と消費者がつながるイベント開催など、農家の頑張りが収入につながるように、一歩踏み込んで応援したり盛り上げたりしてもらえたらうれしいです。

マーケットの維持＝農業の継続

農産物を買って支える「おうみんち」店長のホンネの話

少量多品目の土地柄
交通要衝の歴史あり

少量多品目の農家が比較的多いのは、守山の特徴です。それは京阪神や関東などの都市を結ぶ交通の要衝で、笠原しようがや美崎大根など、守山の特産品といわれる農作物の行商が盛んな地域だった歴史があるからかもしれません。

もともと農家の人たちが野菜などを小規模で栽培して、家族で食べたり、近所や知人にお裾分けしたりしても余った分を捨てるのはもったいない。少しでも収入に変えよう、という発想から、大型直売所である「ファーマーズマーケット おうみんち」は、始まりました。

新規就農者もウエルカム
地元野菜を食べて応援

守山はウエルカムの空気があり、新規就農者も一般的な栽培



守山産
ブランドの一部

技術は先輩農家に教えてもらえるかもしれないけれど、経験ゆえの勘どころとか、教えにならない微妙な技術の差はどうしてもあると思います。

ていくつもりで仕事をしていきます。頑張つて売って、食べて、支えていくので、とにかく農家の人にはおいしい作物を作つてほしい。

来店するお客さまが新鮮な地元野菜を選んで、おいしく食べられる。そのことが農家の応援になります。生産者と消費者の距離をできるだけ縮めるのも、直売所の使命だと考えています。

新しい挑戦も含め、ブランドینگに成功した名産品・特産品がたくさんあります。

ファーマーズマーケット おうみんち

伊庭本 浩孝 店長



「農」からまちをブランドにする

地域おこし協力隊 モリヤマメロン農家を目指す小島 伯斗さん



比良の遠景と農地の近景 農業初心者も毎日楽しく

地域おこし協力隊として就労した山田農園は今浜町です。比良山の遠景と、遮るもののない農地の近景の中に立つと心が躍り、癒やされます。市内でも眺望の美しいところではないかと思えます。

受け入れてくださった山田さんは、最初に『あれせえ』『なんでできんねん』は言われないようにする。俺も通ってきた道やから一言してくれました。

隊員に決まって、農家へ挨拶に回った時、皆さんから「これから頼むぞ」と声をかけられました。メロン部会の先輩や近所の農家との交流もあって、やっぱり守山の人は温かいと実感しました。

毎日が楽しくて「もっと守山がよくなるために頑張ろう」という気持ちも強くなりました。

農業の基本を覚えSNSで発信 独立就農の未来を見据えて

冬の間は、シユンギクやコマツナなど冬野菜の栽培、収穫、箱詰め、出荷といった農業の基本となる作業の毎日です。

仕事終わりにシユンギクをもらえることがあって、新鮮だからなのか自分が育てることに携わっているからなのか、少し苦手だったのにおいしくて、好きになりそうな気がしています。

メロンの栽培はただでさえ難しいといわれている上に、モリヤマメロンというブランド品質を育て上げるのですから、初心者の私には高いハードルだとい

う自覚があります。

農業に慣れることから始めて3年間の隊員活動で、モリヤマメロンの栽培技術だけでなく、農業でしっかりと独立して生活できるように準備していきます。

守山にはメロンだけでなく、しゅんぎく姉妹や守山矢島がぶらなど魅力ある農産物がたくさんありますし、「もりやまいち」などまちの魅力もたくさんあるので、どんどん発信して、「守山のまち」そのものをブランドにしていけたらと思います。

まずは、SNSで駆け出し農業者(私)の作業日誌の発信を始めた。皆さんのフォローで応援してください。



小島さんのInstagram



地域おこし協力隊委嘱式(令和6年12月)



ハウスの畑にコマツナの種をまく



シユンギクの出荷作業

都市が発展しても守るべき農業がある

農業人口減を抑える鍵に 新規就農者に寄せる期待

現在、市内の認定農業者は93件。このうち、広大な土地で米・麦・大豆を作る土地利用型農家は71件、畑作農家22件となっています。複合経営の農家も増えてきました。

滋賀県はもともと親子継承の兼業農家が多い土地柄でした。国の農業政策で大規模農家への集積が進み、さらに担い手の高齢化が進み、守山の農業人口は減っています。農業人口の減少は、耕作放棄地の問題につながります。幸い市内ではまだ多くありませんが、田園風景の中にパイプハウスの残骸があったりします。

これまで、主にモリヤマメロンや畑作で既存農家と新規就農者をつなぐことが多かったのですが、今後は土地利用型の農業でも既存農家と新規就農者をつないでいく必要があると考えています。

農業にきめ細かいサポートで 田園風景と市街地共存のまち

新規就農者は20歳代の若者から定



農政課 課長
福嶋 信宏さん

年後の帰農など、さまざまなケースがありますが、どちらにしろ生半可な気持ちでできる仕事ではありません。全国的には、国や市の補助金がなくなったたんに行き詰まって離農してしまっただという話も聞きます。

田園風景と市街地がコンパクトに共存していることは本市の魅力です。農業は守山の「根っこ」。まちが発展し伸びゆくためにも守るべき産業です。

国の新規就農者に対する補助の他に、市独自で「モリヤマメロン新規就農者包括支援補助金」「守山産野菜新規就農者育成支援事業費補助金」などの制度があります。新規就農者が育つことで、既存の農家や地場産農作物も活気が出ると思っています。

まちの農業に新しい視点の風よ吹け

地域おこし協力隊OG・OBと 一緒に隊員をサポート

一般社団法人しがごまとまるごと協力量ネットワークは、令和6年2月に県内で活動してきた地域おこし協力量のOG・OB4人で結成した団体で、自治体と新隊員をつないだり、隊員のサポートをしたりする活動をしています。守山で初めてとなる地域おこし協力隊の募集でも、お話し滞りの企画を立てるなど協力してくれました。

県内では、これまでも各市域で隊員が活動してきましたし、現役の隊員が約40人います。しかし、定住にはつながっていないケースも少なくありません。その理由は、関係者とのコミュニケーション不足、ミッションのミスマッチ、卒業後に稼いでいけないなど、さまざまです。

ミッションと期待は重いけれど やりがいが「楽しい」になるように

守山は平坦で獣害も雪も少ない、農業には恵まれたまちです。暮らしの利便性も良い本市で、初めて募集

した「地域おこし協力隊」は、モリヤマメロン農家の後継者と発信者という重要任務を背負っています。さらに、活動終了後は独立農家としてして定住することが期待されています。

大阪から移住して隊員となった小島さんに与えられた3年間のミッションは、正直、大変な挑戦でしょう。しかし接する中で「守山のため」という意欲が強く感じられました。

地域おこし協力隊が本市にどんな風を起してくれるのかを楽しみに、農業者や行政だけでなく、市民ぐるみで応援していけたらと考えています。

農政課 地域おこし協力隊担当

木下 真元さん



しがごまとまるごと協力量ネットワーク
藤田 彩夏さん